

全体

令和5年度 兵庫県サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 実践研修

※令和3年度サービス管理責任者等指導者養成研修資料 一部抜粋

兵庫県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
実践研修検討委員会

全体

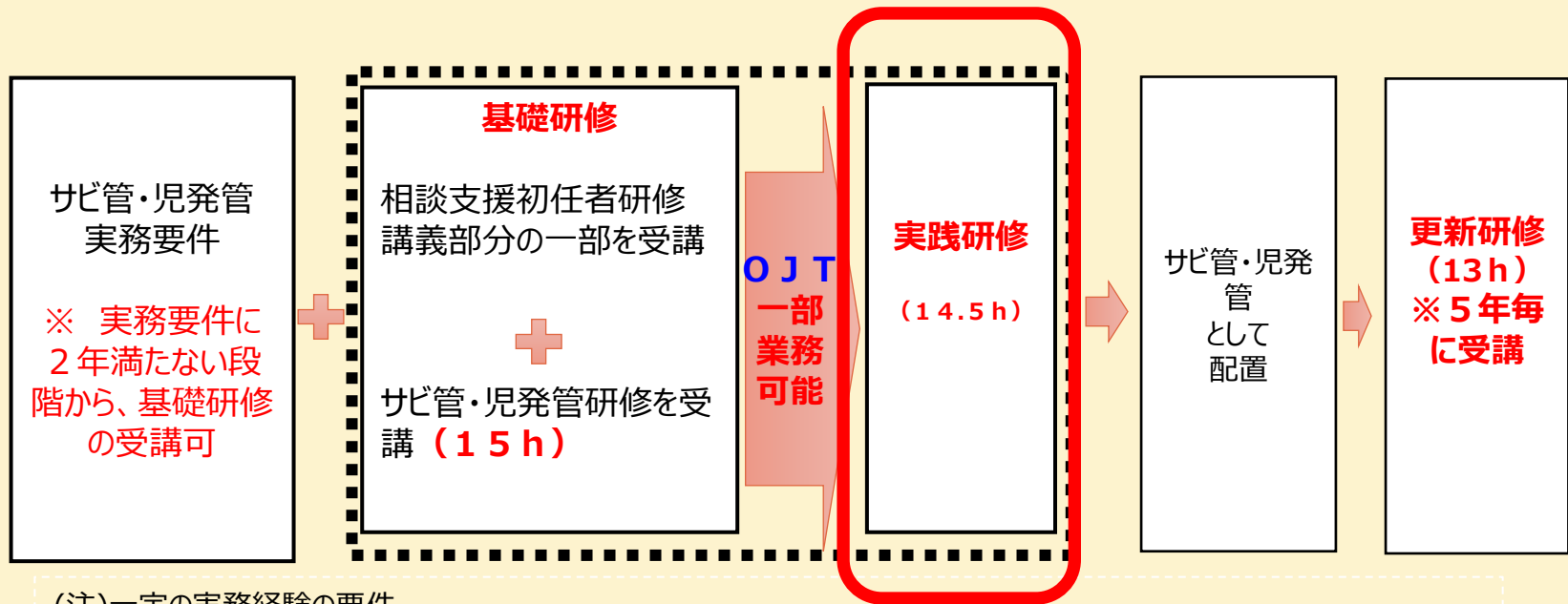
12:30~12:45

研修ガイダンス

- ・実践研修のねらい・目的
- ・本日のプログラム

基礎・実践・更新研修の流れ

全体



(注)一定の実務経験の要件

- ・実践研修：過去5年間に2年以上の相談支援又は直接支援業務の実務経験
- ・更新研修：①過去5年間に2年以上のサビ管・児発管等の実務経験がある又は②現にサビ管・児発管等として従事

基礎・実践・更新研修のねらい

全体

 更新研修 ：自己検証 施策の最新の動向、自己検証、 スーパーバイズ、人材育成によるサービ ス（支援）の質の向上	5年毎 サービス（児童発達 支援）管理責任者と して継続
 実践研修 ：質の向上 支援会議の運営、サービス（支援）提供職 員への助言・指導、個別支援計画の質の向上、 人材育成によるサービス（支援）の質の向上	5年 サービス（児童発達 支援）管理責任者と して配置
基礎研修 ：プロセスの理解 アセスメント、個別支援計画の作成、 相談支援専門員との連携、多職種連携	3年 原案作成が可能

※「実践研修：質の向上」と示していますが、基礎研修で支援のプロセスを理解し、2年間のOJT期間を経て、その2年間の実務の総仕上げとして、支援のプロセスそれぞれの質を向上させていくために大切な視点を学ぶ研修であると考えていきましょう。

実践研修の目的①

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の本来業務を実践するために、**個別支援計画の作成に携わっていることを前提**として、サービス（支援）提供プロセスにおける「管理」、具体的には「**支援会議の運営**」、「**サービス（支援）提供職員への助言・指導**」について講義及び演習を通して理解する。

また、演習においては、グループワーク等を実施する中で、各自が実際に作成した「**個別支援計画**」の**内容等の質の向上**を図る。

実践研修の目的②

修了時の到達レベルは、2年間の個別支援計画素案作成・修正素案作成の経験をベースに個別支援計画作成・修正について熟達し、関係機関との連絡調整や支援会議の運営、サービス提供職員に対する技術的な指導・助言等一連のサービス（支援）プロセス管理業務が行えるレベルとする。

実践研修の目的③

修了後の役割像としては、実践研修修了により従来のサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の業務に携わること（サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者資格取得）を想定しています。

研修スケジュール：1日目①

1. 研修ガイダンス（12:30～12:45）
2. 障害福祉施策の最新の動向（12:45～13:45）
3. サービス提供職員への助言・指導（13:55～14:55）

研修スケジュール：1日目②

全体

4. 自立支援協議会を活用した

地域課題の解決に向けた取組み（15:05～16:05）

5. サービス担当者会議における

サービス管理責任者の役割（16:15～17:15）

6. 事前課題の説明（17:15～17:30）

演習の実施方法

1. グループの構成

- 1 グループ当たりの受講者の人数は 5 名～ 6 名です。
- グループは様々な事業種別に従事する者により構成されています。
- グループの中で、司会、記録、発表者を決めますが、その方だけに任せきりにならず、他のメンバーも協力しましょう。

2. 講師の配置と役割

- 全体進行講師： 1 名
 - ・・・進行を行ったり、演習講師への指示を出すなど、全体の取りまとめを行います。
- 演習ファシリテーター： 1 名／ 2 グループ
 - ・・・受講者個別のワークへのアドバイスやグループワークを円滑に進めるための進行役や進行のためのサポートを行います。

演習に取り組む姿勢

演習に取り組むためのグランドルール

- ① 研修受講者全員が笑顔で主体的に参加する。
- ② 職場内での協働を意識して、グループごとの結論を導くための共同作業により、幅広い視点と視野を育む。
- ③ 一人一人の発言を大切にし、一人で話し続けるドッチボールにならないよう、キャッチボールする感覚で共有する。
- ④ 意見が食い違っても相手の良いところに注目する。
- ⑤ 司会進行、記録、発表等の役割にあたった方を労い、助け合う。
- ⑥ 場を和ませるようなユーモア&笑顔と拍手も忘れずに！！